

# 物語の力で地域を笑顔に！～児童文学を活用した地域活性化の挑戦～

## 提案コンセプト

空き不動産を「物語のふるさと」として再生し文学と記憶が重なる場所として地域住民や子どもたちに開放し、地域活性化を促す。

## 対象とする空き不動産の概要

### 1：物件タイプ

- ・木造平屋／元公民館・集会所・民家
- ・縁側、和室、土間、庭などの伝統的要素がある
- ・地域の集会所として使われていたが、今は使われていない木造の公民館
- ・自然豊かな環境にあり、老朽化はしているが構造は安全
- ・自治体の学校に近いなど、地域の子どもたちが気軽に来られる立地の空き不動産



<https://www.houzz.jp/photos/phvw-vp~124322381>



<https://plaza.rakuten.co.jp/canina98/diary/202106050000/>

### 2：活用アイデアとの親和性

- ・和室：読み聞かせやPOP制作に使える静かな交流室に最適
- ・土間/縁側：木の実拾い、茶話会などの体験活動にぴったり
- ・庭スペース：絵本の植物を植える「読書の庭」づくりにも活用可能
- ・駅近空き店舗：地域イベントや図書案内所との連携に好適

## 類似活用事例①

「西国図書室」東京都西国分寺の”街の図書室”



<https://www.n95.jp/project/nishikoku-tosho>

「まちのもちより図書室」としてまちに暮らす人が、自分の大切な本を持ち寄る。本を読むだけでなく、食事やカードゲームなどを通して交流することができる。

## 類似活用事例②

「こすみ図書」墨田区鳩の街商店街の図書室



<https://kosumitosyo.blogspot.com/>

空き店舗を改装してできた図書館。ギャラリー、食事会などさまざまなイベントを開催

## 空き不動産の使い方

- 例) 宮沢賢治や他の児童文学作品の「ふるさと」を再現した体験型読書空間を設置
- ・季節ごとに物語にちなんだワークショップ（朗読会・木の実拾い・星空観察など）を実施
  - ・地元の高齢者と子どもたちが一緒に参加できる交流イベントも開催
  - ・建物内外に自然や文学的描写を再現した装飾を配置



<https://ibaraki.goguynet.jp/2022/05/19/tsuchikabebunko/>

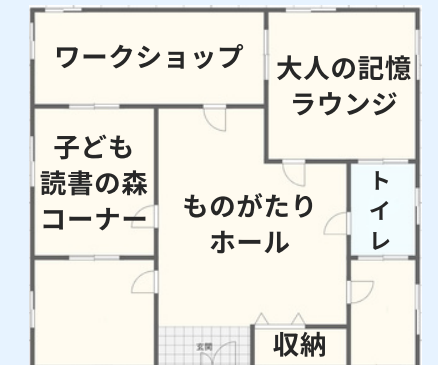


<https://arura-media.jp/gourmet/3893/>

- ① ものがたりホール：朗読・企画展示
- ② こども読書の森コーナー
- ③ ワークショップ室：工作／季節行事
- ④ おとなの記憶ラウンジ：語り部・対話
- ⑤ お茶スペース：交流会、地元食材の活用
- ⑥ 収納＋資料庫
- ⑦ バリアフリー対応トイレ
- ⑧ 土間玄関：掲示板、来館カード

## イベント開催

- 春『春と修羅』：朗読会  
夏『銀河鉄道の夜』：星空観察、星図投影  
秋『どんぐりと山猫』：木の実図鑑づくり  
冬：こたつで昔話と温かいお茶会



間取り作成：マイホームクラウド  
<https://myhome-cloud.net/>

## この提案がどのように豊かな暮らしを支えるのか

- ・忘れられつつある空き不動産を「人と物語が交差する場所」として再生し、地域に新たな価値を吹き込む。
- ・子どもたちは読書を通じて自然やふるさとの魅力に触れ、高齢者は記憶や経験を語り合うことで役割とつながりを実感できる。こうした世代間の交流が、住民の地域愛や誇りを育み、「ふるさとを大切に思う心」を再発見するきっかけとなる
- ・本と記憶が出会う場が、地域の“心のよりどころ”となり、暮らしにあたたかな豊かさをもたらす。

## 目標11：住み続けられるまちづくりを

11 住み続けられるまちづくりを



世代が集い地域の記憶と文化を共有するコミュニティ拠点として空き不動産を活用し、持続可能で愛着あるまちづくりに寄与する。

## 目標4：質の高い教育をみんなに

4 質の高い教育をみんなに



空き公民館を「児童文学のふるさと空間」として再生することで、子どもが読書と地域学習を結びつけて学べる教育拠点をつくる